

2022(令和4)年度 各館の特色ある活動報告

滋賀大学
滋賀医科大学
京都大学
京都工芸繊維大学
大阪大学
大阪教育大学
神戸大学
奈良女子大学
和歌山大学
奈良先端科学技術大学院大学
国際日本文化研究センター
国立民族学博物館

2023(令和5)年4月



令和4年度 (令和4年4月～令和5年3月)

滋賀大学附属図書館の特色ある活動報告

滋賀大学附属図書館の概要

1. 本館

場所 彦根キャンパス (経済学部・データサイエンス学部)

蔵書 401,352 冊 (令和5年3月末)

入館者数 90,384 人 (令和4年度)

彦根キャンパス

2. 教育学部分館

場所 大津キャンパス (教育学部)

蔵書 266,223 冊 (令和5年3月末)

入館者数 49,401 人 (令和4年度)



大津キャンパス

重点領域1：知の共有

1. シラバス指定図書を中心とした電子ブックの整備

令和4年度はシラバス指定図書など学生の需要度が高い資料を中心に電子ブックの購入を進めた。また、シラバス指定図書を電子ブックで利用できるという利点を効果的にPRする等、学部カリキュラムとの連携の観点からも、電子ブックを含めその他電子資料の利活用が促進されるよう、対応を進めた。

2. 古典籍・漢籍の目録登録

教育学部分館で所蔵する古典籍・漢籍 (彦根藩弘道館旧蔵書を含む) について、OPACでの検索を可能とするべく登録を進めた。

重点領域2：知の創出

1. 個別企画展示の実施 (彦根・大津両キャンパス)

本館・教育学部分館にて、「戦争と平和について考える」、「レポート・論文を作成するには?」、「パネル展 蔵出し郷土資料 ※1」等、時宜に即したテーマで実施し、図書館員のアイデアと多種多様な蔵書を活かした企画展示を行った。また、本館では経済学部グローバル・コースの教員・学生と連携し、授業の一環として学生が図書館に展示を行う企画を実施した。

《その他の展示テーマ》

「滋賀県大学図書館のおすすめ本」、「教育実習に役立つ本」、「SDGs への取組を知ろう!」、「スポーツ」等 / ※1: 百年以上前の江戸期から明治期に著された資料で、現在の滋賀県の歴史的・地理的事項や人物に関係する内容を含む貴重な資料の一部をデジタル撮影しパネル展示



個別企画展示

「戦争と平和について考える」

2. 教科書展の開催（大津キャンパス）

教育学部分館（大津キャンパス）では、「日本人が会う初めての英語教科書 1 ページ目―“This is a pen.”との出会いと別れ―」をテーマに、本学教育学部の板東美智子教授監修のもと、教科書展を実施した。



3. 所蔵貴重書の公開展示（彦根キャンパス）

本館（彦根キャンパス）では、18世紀～20世紀前半の経済学者アダム・スミス、J.B.セー、レオン・ワルラスに関する本学所蔵の貴重書を展示した。



4. リユース本の活用（彦根・大津両キャンパス）

本館・教育学部分館にて、随時「持ち帰りコーナー」を設置していたことで、教職員から提供された不要図書や図書館の除籍図書のリユースを推進し、学生の図書館や図書への興味を高める契機や勉学交流の場として、有意義な活動となった。

5. 学生を対象とした文献取り寄せサービスの費用支援を実施（彦根・大津両キャンパス）

本館・教育学部分館ともに、学生が文献取り寄せサービスを利用する際の費用を図書館予算で負担している。本館では新型コロナウイルス感染症対策の一環として、対象学生を限定していた例年の運用を教育学部分館同様に全学生へとサービス範囲を拡大したことに伴い、両キャンパスのすべての学生が同サービスの対象となった。

6. 公式 Twitter・LINE アカウントの開設（彦根・大津両キャンパス）

本館・教育学部分館ともに、図書館の公式 Twitter・LINE アカウントの開設に伴い、図書館に関する情報提供や問い合わせ対応等の補助ツールとしての利用を促進し、利用者の利便性向上を図った。

重点領域 3：知の媒介

1. 職員研修への参加

- ・第20回日本古典籍講習会
- ・NII 学術情報基盤オープンフォーラム 2022
- ・JUSTICE 電子資料契約実務研修会
- ・2022 年度大学図書館近畿イニシアティブ「初任者研修」など

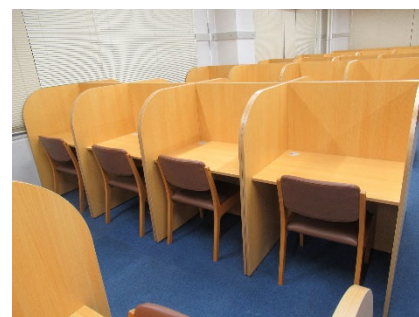
新型コロナウイルス感染症への対応

1. 閲覧席の一部を個別ブース型デスクに

本館・教育学部分館ともに、閲覧室内の環境を整備するため、閲覧席の一部を個別ブース型デスクに更新した。

2. 図書館の施設予約をオンラインでも可能に（彦根キャンパス）

本館（彦根キャンパス）では、本学学生・教職員がオンラインフォームからでも施設予約が行えるように対応を進めた。



令和4（2022）年度滋賀医科大学附属図書館の特色ある活動報告

◆学生選書ツアー

丸善ジュンク堂書店のご協力により、学生選書ツアーを実施した。

選書期間中のお好きな時にお好きな書店（指定の5店舗）にて個別で選書が可能とした。

- ・選書期間：10月22日（土）～10月31日（月）
- ・選書対象書店：ジュンク堂草津店、丸善京都本店、ジュンク堂大阪本店、MARUZEN&ジュンク堂梅田店、ジュンク堂松坂屋高槻店

◆電子書籍の整備強化

- ・学生用図書のおすすめにて電子書籍も対象とした。（60冊の推薦あり）
- ・丸善 E-Book 試読サービスを実施した。（10/1～11/30）

◆図書展示

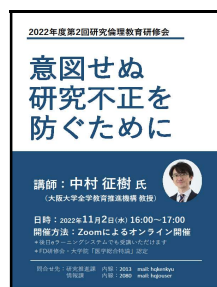
展示テーマを多彩に用意し学内外イベントとの連動企画も多数実施した。

- ・新生活応援（4/1～5/20）
- ・新入生歓迎企画「本学教職員がすすめるこの本2022」（4/4～5/20）
- ・学術出版の現状と業績評価（5/30～6/30）**
- ・ようこそ滋賀県へ（6/1～6/30）
- ・滋賀県大学図書館のおすすめ本2022（6/1～6/30）
- ・どうしたら多くの仕事をこなすことができるのかは、ビジネスマンに聞け！（7/13～8/31）
- ・「月」を読む（9/5～9/30）
- ・リレー・フォー・ライフ関連図書（10/7～11/4）
- ・アカデミックライティング（10/12～11/16）
- ・2022 若鮎邇上会講演企画（10/25～11/25）
- ・選書ツアーに行ってきました（12/20～1/31）
- ・植物の本棚。（3/13～4/14）



◆研究倫理教育研修会の開催（研究推進課と共催）**

- ・(6/2)「学術出版の現状と業績評価」 講師：有田正規氏（国立遺伝学研究所）
- ・(11/4)「意図せぬ研究不正を防ぐために」 講師：中村征樹氏（大阪大学）



◆情報リテラシー教育の実施

遠隔、対面のみ、遠隔と対面の併用による講義や研修会を実施した。オーダーメイドガイダンスでは初めての試みとして、基礎医学入門¹⁾の一環として入学直後の1年生が『研究を進めていく上での手法』を学ぶ文献検索講習会(PubMed、医中誌Web)を、また病院リハビリテーション部でも出張勉強会²⁾を実施した。

- ・(4/5)新入生オリエンテーション(医・看1:169名)
- ・(4/8)看護師特定行為研修生オリエンテーション(20名)
- ・(4/25,26)情報科学(医・看1:152名)
- ・(4/28)基礎医学研究入門I¹⁾(医1,2:32名)
- ・(5/9)医学総合特論(博士:18名)
- ・(5/12,6/20,7/15)看護部研修会文献検索講習会(77名)
- ・(5/20)Up To Date オンライン説明会(22名)
- ・(6/10)リハビリテーション部文献検索講習会²⁾(20名)
- ・(7/7,14・7/22,29)看護学研究方法論I(修士:25名)
- ・(9/8)リハビリテーション部文献管理ツールを使ってみよう²⁾(16名)
- ・(9/9)看護師特定行為研修生オリエンテーション(6名)
- ・(10/17)アカデミックライティング(医1:78名)
- ・(10/24)看護学研究方法論(看2:55名)
- ・(11/17)看護学研究方法論IV(修士:6名)
- ・(1/17-2/20)文献検索講習会(看3:59名)
- ・(1/18)アカデミック・スキル(看1:59名)
- ・(1/19)臨床実習オリエンテーション(医4:120名)
- ・(通年)脳神経内科臨床実習文献検索講習会(医4,5:109)



1) 基礎医学研究入門 I



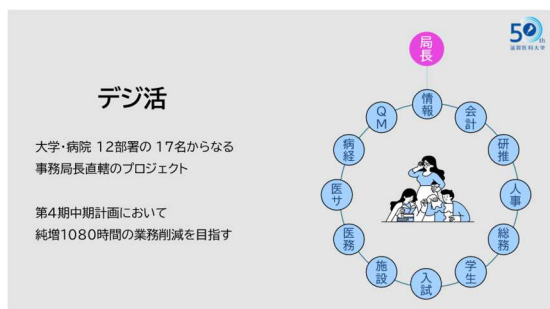
2) 病院リハビリテーション部へ出張勉強会!

◆著作権に関するサポートの提供

- ・授業目的公衆送信補償金制度の申請と分配補償金受領の手続きを担当した。
- ・著作権に関する相談窓口として教員や学内他部署からの問い合わせに対応した。

◆附属図書館学術情報委員会設置に向けての取り組み(2023年4月1日設置)

◆デジタル技術活用プロジェクト(2022年度設置)



※情報課は附属図書館事務を所掌する「学術企画係」「利用支援係」とマルチメディアセンター事務を所掌する「情報統括係」から成り、IR室事務も担当している。

2022（令和4）年度 特色ある活動報告

2023年4月
京都大学図書館機構

1. オープンアクセスの推進と研究活動支援

(1) DataCite DOI 付与の開始

京都大学学術情報リポジトリ KURENAI に登録する研究データに対して、Japan Link Center が管理する DOI (JaLC DOI) に加え、研究データに特化した国際的な DOI 登録機関である DataCite が管理する DOI (DataCite DOI) を付与できるようにした。

(2) Wiley 転換契約の導入

2023年1月から Wiley 社との契約において、電子ジャーナル購読料と APC (Article Processing Charge : 論文処理費用) を包括した転換契約を導入した。あわせて、受益者負担の観点から、学内措置として研究者に対して、Wiley の APC 定価に一定の割引を適用した APC 負担額の供出を求め、大学経費、研究者経費をともに節減することとした。

(3) 電子ジャーナル・データベース認証システムのリプレイス

電子ジャーナル・データベースの不適切利用の防止と原因究明、および利用状況の把握のために導入している「電子ジャーナル・データベース認証システム」をリプレイスし、2023年1月から、米国 OCLC 社製 EZproxy を用いたシステムに移行した。

(4) 研究データ管理・公開支援ポータルサイトの公開

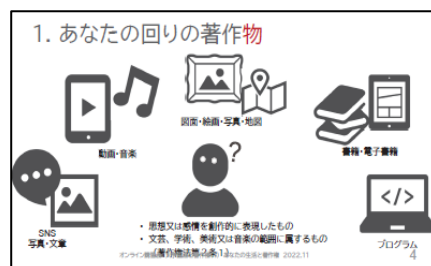
研究データに関する状況を整理し、研究者がすべきこと、さらに京都大学が行っている支援についての情報をまとめたサイト「京都大学 研究データ管理・公開支援」を、図書館機構を含む研究データに関わる部署から成る WG によって 2023年3月に公開した。

(参考) 京都大学 研究データ管理・公開支援 <https://rdm.kyoto-u.ac.jp/>

2. 学修・教育支援の推進

(1) 図書館講習会の DX (デジタルトランスフォーメーション)

既存の学術情報リテラシー講習会を再構築し、オンデマンド型動画コンテンツ 10 点を配信した。マイクロラーニング手法を用い、時間や場所の制約をなくしたことでより多くの学生に受講機会を提供した。



【動画コンテンツの例】

(2) 図書おすすめサービスの小冊子を配布

2021年度に実施した、大学院生スタッフが図書をおすすめする企画、「あなたのための推薦図書」で選定した図書をまとめた小冊子を作成、配布した。

(参考) 小冊子「あなたのための推薦図書」vol.1-3を発行しました。

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1394993>



(3) 学内の自学自習スペースの情報提供

学内の図書館・室等にある、学生が自学自習できるスペースの調査を行い、Webサイトで情報を提供した。

(4) 附属図書館の開館時間変更

附属図書館では、2020年度から2021年度にかけて平日の開館時間を新型コロナウイルス感染状況やアカデミックカレンダーに応じて都度変更していたが、2022年度においては平日の開館時間を原則8時30分～21時30分に固定した。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために休止していた学習室24の深夜開室を10月に再開した。

3. 豊富な学術資源の活用と社会貢献

(1) 京都大学創立125周年記念附属図書館所蔵貴重資料展示の開催

京都大学創立125周年を記念して、「絵物語の貴重資料展」と題した、附属図書館が所蔵する貴重資料6点を紹介する展示を開催した。デジタル展示は2022年6月から12月まで、附属図書館でのパネル展示は同年6月から8月まで。



(参考) デジタル展示Webサイト

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/mainlib/exhibition/exh2022>

(2) 貴重資料の一般公開

湯本豪一記念日本妖怪博物館（広島県三次市）にて開催された「予言獣のチカラ アマビエとアマビコたち」展に、附属図書館が所蔵する『肥後国海中の怪(アマビエの図)』を出品した(2022年9月～11月)。



(3) 貴重資料電子化の推進

附属図書館が所蔵する「菊亭文庫」「蔵経書院文庫」「大惣本」、部局図書室が所蔵する地図・星図等の大判資料や、その他人社系を中心とした資料等、合計920タイトルを電子化し、京都大学貴重資料デジタルアーカイブに公開した（一部は2023年度公開予定）。また、総合博

物館が所蔵する「駿河伊達文書（中世）」「肖像画コレクション」のデジタル画像をデジタルアーカイブに公開した。

(4) 卒業生利用者へのサービス拡充

2022年6月から京都大学創立125周年を記念し、卒業生利用者を対象として、学内の利用者と同様に書庫の入庫検索を可能とした。利用者のセルフサービスの推進を実現するとともに、書庫出納等の業務削減につながった。

令和4年度 京都教育大学附属図書館 特色ある活動報告

重点領域1 知の共有：蔵書を超えた〈知識や情報〉の共有

- 電子書籍の購入強化
「Maruzen eBook Library」「KinoDen」他の試読を実施。117 タイトルを追加購入。
- 学生参加の選書企画
 - ・ 話題書の購入「リクエストと投票で話題の本を読もう」
学術研究・教養目的以外の学生からのリクエストを含む新刊・話題書等を対象に、利用者が投票。得票数の高いものを購入。授業期間中に毎月実施。
 - ・ 選書ツアー（ブックハンティング）の実施
前期は店頭選書、後期は書店と Web のハイブリッド実施となった。15 名が参加、168 冊購入。



重点領域2 知の創出：新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

- 授業等と連携した図書展示や教員・学生による企画展示
 - ・ 保育士試験対策コーナー（6/3～7/2, 11/21～12/10）
 - ・ ブックレポート応援コーナー（4/26～6/9, 7/8～8/10）
授業担当教員に協力し、ブックレポート課題向け図書およびそのレポートの展示
 - ・ 中庭コンサート（5月26日）
「器楽基礎演習」の授業成果発表
 - ・ 学生や教職員による教科・学習研究等に関連する企画展示：3件（企画展示室）
- 各種講習会の開催
 - ・ 論文検索講習会、データベース検索講習会を人数限定・予約制で実施。
 - ・ オーダーメイド講習会 教員の要望に合わせ内容・時間を指定できる講習会を実施。

- 学生への ILL 利用支援
近畿地区四教育大学間で協力し、学生が利用する相互貸借送料を図書館等で負担、利用支援を行っている。
 - 地域他館との連携
京都府立図書館を中心とする府内図書館連携 K-Libnet に参加、連絡車による相互貸借を実施。2022 年度実績：貸出 53 件、借受 48 件
 - 読み聞かせ会「えほんのもり」
児童書コーナーでの幼児教育科の学生による絵本カードの作成、今月の絵本紹介などを継続実施。学生による読み聞かせ会(月 2 回)は、図書館内での実施は今年度見送りとなった。
 - うたとおはなしの会の開催 幼児教育科と共催 (10 月 1 日 定員 50 名・2 回)
新型コロナウイルス対策で休止していた幼児教育科の学生による幼児向けイベントを再開。人形劇やストーリーテリングなど。
-
- 第 4 回教育展 (教育資料館主催・附属図書館共催 11 月 11 日～1 月 10 日)
『先生を目指した女性たち—京都府女子師範学校の歩み—』を企画展示室で展示。
 - 教育資料館「今月の逸品」展示協力
附属図書館 1 階渡り廊下にて、資料館収蔵品を展示。(2 ヶ月毎展示替)

重点領域 3 知の媒介：知の交流を促す<人材>の構築

- 学修支援員の配置 (平成 27 年 10 月～継続)・学修支援員によるミニ講座の実施
大学院生による学修支援員の分野を理系のみから他分野にも拡大し、ラーニングコモンズに配置。対面授業実施中の月～金に実施のほか、後期には学修支援員が企画・実施するミニ講座(30 分)も実施。
- 初年次教育科目における新入生図書館ガイダンスの実施
Kyokyo スタートアップセミナー (1 回生前期)において、対面授業形式で図書館ガイダンスを実施。(5 月 23 日～6 月 16 日 全 8 回実施、13 専攻 327 名)
- 中学生の「職場体験」事業などへの協力
9 月に京都市立藤城小学校より「まちたんけん」活動のインタビューを受入。
10 月に京都市立深草中学校より「チャレンジ体験」の生徒 2 名受入。

京都工芸繊維大学附属図書館 令和4年度特色ある活動の報告

1. ML(ミュージアム・ライブラリー)連携

● ML(ミュージアム・ライブラリー)連携企画展示

平成 30 年度より ML 連携企画と題して、美術工芸資料館と附属図書館が連携し企画展示を実施している。

- 企画展示「京都高等工芸学校 開講 120 周年記念特別展示」
(令和 4 年 10 月 3 日 (月) ~12 月 17 日 (土))

京都高等工芸学校時代に教材として収集された美しいデザイン資料や、当時の写真帖、卒業アルバムを展示した。
また、当時の校長、教員の関連著書も併せて展示した。



アルバム・写真帖の展示

- 企画展示「ピンホールカメラ」
(令和 5 年 1 月 23 日 (月) ~3 月 24 日 (金))

以前、演習科目の授業で取り扱っていたピンホールカメラを題材に、当時の授業風景写真や作品集、カメラと写真に関連する図書を展示した。



企画展示の様子

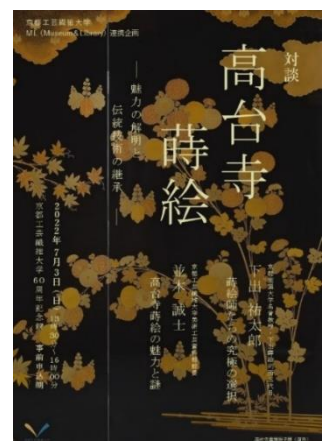
● 対談「高台寺蒔絵—魅力の解明と伝統技術の継承—」の開催

令和 4 年 7 月 3 日(日)年に ML 連携企画 対談「高台寺蒔絵—魅力の解明と伝統技術の継承—」を開催した。

下出 祐太郎 氏(下出蒔絵司所三代目・京都産業大学文化学部京都文化学科教授)を講師に迎え、高台寺蒔絵の魅力と謎の解明、伝統技術の保存と継承、文化財保存について講演いただき、後半では並木 誠士 美術工芸資料館館長との対談を行った。

学芸員科目の授業の一環としても取り扱われ、受講学生をはじめ広く一般からも参加があった。

当日の様子は、本学附属図書館の YouTube チャンネルにて期間限定で公開した。



対談ポスター

2. 情報発信、イベントの開催

● 「学生選書」の実施

令和4年11月16日(水)～11月30日(水)にかけて、学生ボランティアによる「学生選書」を実施した。書店店頭での選書に加え Web 選書も可能とし、参加学生14名によって60冊の図書が選ばれた。学生から選書した1冊についてお薦めコメントを提出してもらい、図書館 Twitter にてコメントを順次紹介している。



学生から選書された本を展示

● 図書館総合展ポスターセッションへの参加

令和4年11月1日(火)～11月30日(水)に開催された第24回図書館総合展ポスターセッションで、附属図書館の特色あるコレクション、本学大学史を紹介する図書館展示室、美術工芸資料館との連携企画などの特徴的な活動について発信した。

● 寄贈に合わせた企画展示

本学発のベンチャー企業である株式会社魁半導体から、「京銀 SDGs 私募債『未来にエール』～次世代を担うこどもたちへ～」による寄贈品として図書の寄贈を受けた。また、寄贈に合わせて企画展示を行った。



企画展示の様子

3. 学修支援・研究支援

● 図書館利用ガイダンス

応用生物学課程・応用化学課程1年次の授業科目において、図書館職員による図書館利用ガイダンスを実施した。内容は主に OPAC 及び各種データベースを使った情報検索の説明と実習を行った。

● 利用者サービス向上のための環境整備

館内の無線 Wi-Fi の利用増に対応するため、アクセスポイントの増設を行った。

2022(令和4)年度大阪大学附属図書館

国大図協ビジョン 2025 に基づく特色ある活動 近況報告 案

重点領域 1. 知の共有: <蔵書>を超えた知識や情報の共有

目標 1-1: 教育研究成果の発信、オープン化と保存

■ 大学のオープンサイエンス推進体制への参与

附属図書館長である研究・情報担当理事を室長とした「オープンサイエンス推進室」は、全学の研究・情報の関連部局の教員や事務職員で構成されており、図書館からも教員と図書館職員が参加し、研究データ管理基盤の整備・公開基盤の構築に向けて活動している。3月24日「大阪大学研究データポリシー」が総長裁定により策定された。

■ リポジトリ登録支援システム

機関リポジトリ「大阪大学学術情報庫 OUKA」への本学の教員・研究員の論文登録申請等について、各研究室の負担軽減のため、リポジトリ登録支援システムを運用しているが、さらに登録を進めるため、グリーンOAラボ制度(研究室単位での登録支援)による集中的なOA化事業を実施した。

■ NII 事業への参画

10月1日にNIIと本学の間で協定が締結され、理化学研究所、東京大学、名古屋大学とともに、NII「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」に参画している。本学では、オープンサイエンス推進を課題とする附属図書館研究開発室の専任教員を中心に、「人材育成チーム」を担当している。

■ シュプリンガーネイチャー社との転換契約締結

オープンアクセスの推進を目的として、国内9大学と共同してシュプリンガーネイチャー社との間で2023年1月からジャーナルの「転換契約」に係るパイロットプロジェクトを進めることを合意し、論文のOA化促進に取り組んでいる。

■ APC 調査

オープンアクセスのためのOA出版料(APC)の実態把握のため、2021年度財務会計システムの最終数値を取りまとめた。

■ 新任教員研修の実施

2022年5月から2023年3月まで、新任教員研修プログラムとして、動画「オープンアクセスを巡る状況と大阪大学におけるオープンアクセス支援」を学内の授業支援システムに掲載し、期間中自由なタイミングで受講可能として実施した。(受講者数:82名)

目標 1-2: 図書館資料の整備と利用のための保存

■ 蔵書管理WGの活動

収蔵スペース狭隘化に対応するため資料重複判定基準等を検討し、全館統一の資料保存ルール策定を目指すこととした。

■ カビ対策工事

カビが大量発生した収蔵エリアのカビ対策空調工事(2022~2025年度)を実施している。

目標 1-3: 知識や情報の発見可能性の向上

■ 図書館業務システムの更新

9月26日に新システムが稼働。併せて図書館 Web サイトリニューアル、大阪大学蔵書検索(OPAC)の機能追加、機関リポジトリ「大阪大学学術情報庫 OUKA」のシステム更新が行われ、サービスが向上した。特に OUKA では新機能として IIIF に対応可能となったため、貴重書等の画像公開が進むことが期待される。

■ 学習支援活動

感染防止対策をとりながら、図書館職員及びラーニング・サポーターによる講習会・セミナー等をオンライン・対面・ハイブリッドにより多数実施している。(2022 年度実績：実施 122 件、参加 1,896 名)

■ 研究支援活動

Nature Masterclasses オンラインコース (研究推進部・経営企画オフィス URA 部門と共催)実施した。(受講期間 2022 年 2 月 10 日～2023 年 2 月 9 日)

■ ガイダンス

2023 年 4 月に対面で新入生ガイダンスを実施。2022 年 10 月に、図書館ツアーや新任教職員向けガイダンス等を実施した。別途、図書館案内動画は図書館 Web サイトで公開している。

■ 電子ブック試読による選書

9月～12月に試読による電子ブック選書を実施し、297 タイトル(約 400 万円)を選定した。

■ 除却資料の個人への無償譲渡 (試行)

希望者 76 名に 324 冊を無償譲渡した。

重点領域2. 知の創出: 新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

目標 2-1: 知を創出する場の拡大・整備・提供

■ 環境整備 (コロナ対応)

10月から閲覧席数を換気能力の範囲で追加、グループ学習室を 1 人利用等として利用再開した。個室として利用提供してきたラーニングコモンズを含め、4 月からはグループ学習エリアの団体利用を可とした。

目標 2-2: 社会・地域に開かれた知の創出空間の提供

■ 箕面市立船場図書館 (外国学図書館) の運営

市立図書館と大学図書館機能を有する「箕面市立船場図書館」は、年度ごとに箕面市による指定管理者評価を受けるが、今年度の利用者アンケートや市民による合議では高評価を得ている。開館後から箕面市立図書館の中でも利用の多い館となっており、学内他部署及び箕面市等と連携し、幅広く活動を展開している。

主な活動：

- ・ 教員・学生との連携企画：
タイ語専攻や「大阪大学夏まつり」実行委員会と連携した絵本読み聞かせ、各国文化紹介等のイベント開催
- ・ 市民向け情報リテラシー講座：
図書館活用法のほか、特定テーマの調査法の講座を船場



絵本読み聞かせ(タイ語専攻と連携)

生涯学習センターと連携開催

- ・教育委員会との連携：箕面市立の小学校を対象とした図書館見学
- ・障がい者サービス：リモート対面朗読
- ・地域のボランティアとの連携：乳幼児向けおはなし会開催
- ・図書展示：

市蔵書・大学蔵書のコラボ展示、船場生涯学習センター生涯学習講座のテーマ関連展示等

重点領域3. 知の媒介:知交流を促す<人材>の構築

目標 3-1: 多様な人材との協働

■ ラーニング・サポーター (TA) の研修

例年、各館のラーニング・サポーターへ本学教員による学習支援のための研修を実施し、学習支援の質の向上・維持を図っている。

■ 大学のオープンサイエンス推進体制への参与（重点領域 1 目標 1-1 に記載）

■ NII 事業への参画（重点領域 1 目標 1-1 に記載）

目標 3-2: 国立大学図書館職員の能力向上

■ 研修の開催

➤ 大阪大学職員研修「オープンサイエンス時代の研究データ管理支援と求められる人材の育成」

日時 2023年2月14日(火) (参加118名)

講師 本学附属図書館研究開発室専任教員、九州大学データ駆動イノベーション推進本部研究データ管理支援部門教員

図書館において研究成果の公開支援を行う人材の育成が必要であることから、求められる支援人材像、今後の計画も含めた大阪大学の取り組み、および他大学の事例として九州大学での取り組み状況についての講演会を開催した。

➤ 国大協近畿地区協会助成事業「きみも大学図書館で働いてみないか」

新しい人材の獲得を目的として、京都大学、神戸大学、大阪教育大学、兵庫教育大学、本学でWGを作り、国立大学図書館の仕事紹介をウェブサイト、ツイッター等で行った。また次の2つのイベントを実施した。

① 企画展示「100人の大学図書館員展」

日時 2023年2月1日(水)～2月14日(火)

② トークイベント「ダイガクトショカンインの時間」

日時 2023年2月10日(金) (会場参加8名+Zoom参加51名)

■ 多言語目録に関する勉強会：朝鮮語

8月に、国立国会図書館関西館アジア情報課に協力いただき、書誌作成業務等を担当する職員の勉強会をオンラインで実施した。(国立国会図書館との連携は平成28年度から)

大阪教育大学附属図書館の協会ビジョン2025に対応した取り組み 2022年度(2022年4月～2023年3月)

重点領域1.知の共有:蔵書を超えた<知識や情報>の共有

目標1-1) 教育研究成果の発信, オープン化と保存

- (1) 機関リポジトリについて, 登録コンテンツ数の増加を進め, 紀要論文コンテンツ等へのDOI付与を実施するとともに, 学内への広報を強化し, 取り組みを推進している。
- (2) 大学の教育研究成果の発表誌として, 査読制を導入した『大阪教育大学紀要』(Memoirs of Osaka Kyoiku University)を継続的に発行し, 教育研究の質向上に貢献するとともに, 教育研究成果のオープンアクセス化および長期保存を図っている。
- (3) OA 出版料 (APC) の支払実態把握のためアンケート調査を実施し, 教員の動向を注視している。
- (4) 学内の社会連携部署と協働で, 小中学校等の教員に向けたオンライン研修コンテンツを配信するプラットフォームシステムの構築, 運用に取り組み, 教材データの保存と公開を実施している。今年度は大阪市との実証実験で述べ70人参加, 15科目実施された。

目標1-2) 図書館資料の整備と利用のための保存

- (1) 蔵書利用状況, 電子資料のアクセス状況等の実態を把握し, 所要経費について学内措置を進めた上で適切な資料整備につとめ, 本学構成員に即した利用環境を整えている。
- (2) Elsevier 社の ScienceDirect, Scopus について, 東京学芸大学を窓口 to 複数の教育系大学の契約を取りまとめることにより, JUSTICE 提案を基本とした教育系大学の事情に配慮した特別措置が適用されている。本学もこの契約に継続的に参加している。
- (3) 電子ブック (EBSCO eBooks・KinoDen・Maruzen eBook Library) の試読トライアルを実施し, 利用統計に基づいて購入を行った。

目標1-3) 知識や情報の発見可能性の向上

- (1) 未登録資料の遡及入力を継続的に実施し(2022年度は2月末時点で2,016件の遡及済), 国内・海外の教科書コレクションの整備・充実を図っている。
- (2) ディスカバリーサービスとして, EBSCO Discovery Service を活用した検索ツールを提供している。本学に必要な教育学系および日本語文献等に特化した情報が効率的に発見できる環境を構築するとともに, リンクリゾルバによる四教育大学(大阪・京都・奈良・兵庫)を対象とした所蔵確認を図書現物取寄せ無料化の実施に役立てている。(無料化には2022年度から兵庫教育大学が新たに参加)

| | |
|---|---|
|  | <p>◆ 大学の所蔵を確認する ◆</p> <ul style="list-style-type: none">🔍 大阪教育大学図書館の所蔵を確認する🔍 京都教育大学図書館の所蔵を確認する🔍 奈良教育大学図書館の所蔵を確認する🔍 兵庫教育大学図書館の所蔵を確認する🌐 他大学の所蔵を確認 |
|---|---|

重点領域 2. 知の創出: 新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

目標 2-2) 社会・地域に開かれた知の創出空間の提供

- (1) 柏原本館, 天王寺分館とも, 感染症対策に配慮しつつ, 資料利用を目的とした学外者の来館を受け入れている。
- (2) 柏原本館では, 学外からの来館者(修学旅行・大学見学者等)にツアーを実施している。
- (3) 大学が取組む事業「大阪府立八尾高等学校生徒への一部授業の公開」を踏まえ, 天王寺分館において同高校生に対し, 学外者と同一利用条件で資料の館内利用及び館外貸出を行っている。また, 同事業の対面授業を受講する同高校生には, コロナ禍の学外者利用制限中も「準学内者」としての利用や貸出を可能にしており, 2022 年度の天王寺分館についてはほぼ通常どおりの来館サービスを実施している。
- (4) 天王寺キャンパスにて実施する高大連携事業ガイダンス(毎年3月末頃)において, 八尾高校生に対し, 天王寺分館の利用案内を配布し, 見学も実施している。

重点領域 3. 知の媒介: 知の交流を促す〈人材〉の構築

目標 3-1) 多様な人材との協働

- (1) 柏原本館において大学院生をサポートスタッフ(TA)として配置し, 学部学生の学習相談や図書館利用案内などを行っている。4月当初, 職員との協同で新入生向け図書館ツアーを実施。また, 学内の各学習支援ルーム(ICT教育・障がい学生修学支援・外国語学習支援)の学生スタッフと協力し新入生に支援ルームの存在と活動内容を紹介するイベントを開催した。イベント中, 図書館はレポートの書き方の講習を実施。11月にはレポートの書き方を実践的に学ぶワークショップを教員と協同で実施した。
- (2) 6月と12月に, 東京書籍株式会社とエプソン販売株式会社から講師を招き, デジタル教科書・電子黒板体験会を実施した。また電子黒板体験会に先立ち, 電子黒板紹介動画の視聴キャンペーンを実施した。
- (3) 11月に, EBSCO社とElsevier社から講師を招き, EBSCOhostとScopusを中心とした論文検索講習会を開催した。
- (4) 天王寺分館において, 以下のガイダンス・講習会等を実施した。
 - ① 大学の新生ガイダンスにて図書館の説明。コロナ感染対策のため, 2021年度からは案内動画を作成し, 会場で上映している。
 - ② 初等教育教員養成課程の教員要望により, 夜間5年コースの1年生に対し例年どおり, 年度初めに図書館利用案内や学術情報についての考え方, 蔵書検索の仕方, CiNiiでの雑誌論文検索方法のガイダンスを実施。
 - ③ そのほか, 教員の依頼によるゼミ単位での文献検索講習会を実施。

目標 3-2) 国立大学図書館職員の能力向上

- (1) 全学的に重要なプロジェクト(オープンエデュケーション推進, 教育DX推進, IR(Investor Relations)活動, 研究データ管理(RDM)等)に図書館職員が積極的に参加し, これまで培ってきた学術資料に関する専門的知識を活かし, 新たな知識の習得も図りながら, 大学の課題解決に貢献する中で専門的能力の向上を図っている。あわせて, 大学の特性にあった図書館機能のあり方も検討し, 職員に求める役割の明確化も検討している。

兵庫教育大学附属図書館 令和4年度活動報告 (2023.4.7)

1. BLUE CLASS (青空教室) 2023.2.11

コロナ禍により3年間実施を阻まれ続けてきたBLUE CLASS@東遊園地。2023年4月のリニューアルオープンに向け工事中の東遊園地を舞台に、「公園と図書館」をテーマとしたトークライブイベント「 commons のシゲキ!」を開催した。



| | | |
|---|---|---|
| ① | | |
| ② | ③ | |
| ④ | ⑤ | ⑥ |

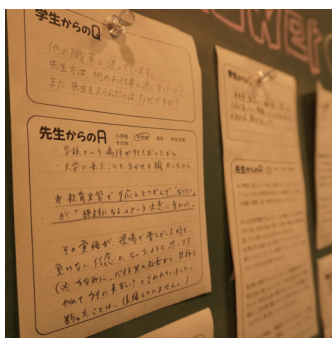
- ① 本学で最もファンキーな永田夏来准教授によるファンキーすぎるモデレーション。
- ② 東遊園地のパークマネジメントを手がける村上豪英氏 (左) と arg の岡本真氏との対談。
- ③ 本学修了生で菊地コーヒー代表の菊地康介氏。機材搬入用のカゴ台車でカフェを演出。
- ④ 園内工事中のため、ヘルメット着用で臨むスタッフたち。
- ⑤ スプラトゥーンのイメージを拝借したシゲキ的なイベントポスター。
- ⑥ 「commons」→「憩う」→「椅子」の連想から、様々なタイプの椅子を会場に配置。

2. 教材文化資料館企画展

(1) 令和4年度後期展「学Q経A：みんなで学級づくりを考えよう」展

2022.10.3 - 2023.2.28

「学級経営」をテーマに、学校現場の先生方が常日頃から取り組んでいる様々な知を結集し、Q&A形式により、仕事の「技」や「アイデア」の奥深さを体感してもらう参加型の展示。



関連イベント

講演会 令和4年度後期 2023年度後期 教材文化資料館

現役の先生に聞く！
いきなり学校現場に出て
困らないための
学級経営

講演内容
学級経営10か条・授業づくり10か条
教員の日常、ココをこう変える！
盛り上がる国語の授業づくり ほか

2023.2.23(木・祝)
13:30開場 14:00-15:45(途中休憩あり)

会場 兵庫教育大学 附属図書館1階PAOホール
定員 40名 ※先着順、定員に達し次第締め切ります。
対象 学生、学校教育関係者(市内関係者)
兵庫教育大学 教材文化資料館
お問合せ 0795-44-2362(平日9:00-17:00)

4月から教壇に立つ学生に送る、教育実践家による講演会。

講師：森川正樹氏（関西学院初等部教諭）

開催日：2023年2月23日

会場：附属図書館ラーニングcommons PAO



(2) 令和5年度企画展「植物に恋して：植物学者・牧野富太郎の足跡」展

2023.4.3 -

生涯にわたって植物を愛し続けた牧野富太郎。NHK連続テレビ小説『らんまん』主人公のモデルにもなった牧野の資料を起点に、植物に関する企画展示を開催。



3. 教材文化資料館の外観の改修

図書館玄関への導線でありながら、これまで常時ブラインドを下ろし、閉館の印象を漂わせていた附属図書館南側（教材文化資料館）の窓サッシを改修し、内側を教材文化資料館の広報スペースとして活用した。



4. 基金プロジェクト

我が国の教育史に多大な功績を残した「社会科」の著名な実践家であり、本学にもゆかりの深い長岡文雄氏（1917-2013）の関係資料を始め、教材文化資料館が収蔵する歴史的に価値の高い教材文化資料のデジタルアーカイブ化プロジェクト。



教材文化資料館収蔵資料のデジタルアーカイブ・プロジェクト



～長岡文雄氏関係資料始め教材文化資料館が収蔵する歴史的価値の高い教材文化資料のデジタルアーカイブ/デジタルギャラリーを構築し、国内外に向けて効果的に発信する。～

令和4年度 神戸大学附属図書館の特色ある活動報告

自然科学系図書館リニューアルオープン

1年の改修増築工事を経て、令和5年4月3日に記念式典を行い、終了後すぐにオープンしました。ハイブリッドの会議やプレゼンが可能な機器を備えたイノベーションスタジオ、畳コーナーやオンラインポッド等様々なタイプの学修エリア、学内共同利用書庫スペース等を新設しました。学生教職員に活用してもらえよう期待します。



I. 学修サポート

■ 学生選書ツアー

新型コロナウイルス感染症の影響により中断していた学生選書ツアーを3年ぶりに11月4日に開催しました。

開催日：11月4日（金）

場所：ジュンク堂書店 三宮店

参加者：17名

■ 読書マラソン

2019年の実施から、3年ぶりに開催しました。図書館の本を読んで、内容や感想を専用フォームから投稿するとポイントを獲得でき、獲得したポイント数によって図書館のオリジナルグッズが貰える企画です。

実施期間：11月1日（火）～1月16日（月）

■ 学生チーム「ULiCS」の活動

(1) 「THE ULiCS TIMES」の発行

ULiCSの活動媒体誌としてVol.11を昨年4月に、Vol.12を10月に、Vol.13を4月に発行しました。各イベントの詳細報告や、館長との懇談会・他大学との交流会のレポート、書評等、学生の生き生きとした声が掲載されています。学内の各図書館での配布のほか、附属図書館HPからPDFで公開しています。

(2) ULiCS主催「化石本発掘イベント」を開催

図書の出版年を「化石度」と定義し、制限時間15分で書庫内から古いと思う図書を選び、持ってきた図書の「化石度」を競うイベントを行いました。最も化石度が高い図書を発掘した参加者には、賞状と記念品が贈呈されました。

実施日：7月27日（木）

場所：総合・国際文化化学図書館書庫



(3) ULiCS 企画 クイズラリー「兵庫の旅」を開催

図書館共通展示「神戸/神戸大学ゆかりの図書」とのコラボ企画として、神戸や神戸大学に関連するクイズに正解するとクリアファイルが貰える企画です。

実施日：11月9日（水）～11月22日（火）



II. 社会連携・情報発信

- デジタルアーカイブ（新聞記事文庫、震災文庫、住田文庫、神戸開港文書等）のリニューアルシステムリプレイスにより、スマホやタブレットから利用しやすくなりました。

また、画像配信の国際規格 IIIF に対応し、メタデータ規格を変更しました。これにより、国内外の他機関システムとの連携が行いやすくなりました。

- 震災文庫の学長表彰

地元テレビ局サンテレビジョンが阪神・淡路大震災の取材時に撮影した映像を被写体の権利に配慮した上で公開する本取組みは、本学の学術的評価を高めたとして10月20日に学長表彰を受けました。

- 令和4年度資料展「古典籍でみる 鎖国下の漂流」

毎年、図書館所蔵資料を利用した展示会を実施しています。今年は3年ぶりに会場にて開催しました。

開催日：10月14日（金）～11月10日（木）、

11月16日（水）～12月20日（火）

場所：社会科学系図書館本館2階展示ホール



III. 研究活動支援

- 名古屋大学・京都大学・大阪大学・神戸大学による RDM に関するオンライン意見交換会を開催

4大学における研究データ管理(RDM)に関する取組状況や課題を詳しく紹介し合う会を行いました。各大学の今後の活動推進に役立つ情報交換が行えました。(開催日：11月1日 参加者：40名)

- フォーラム「ILL/DD サービス 2.0 へ向けて」を開催

著作権法が改正され「図書館等公衆送信サービス」が始まろうとしている中、大学図書館がニーズに合わせた最適なサービスを提供できるよう視野を広げる機会とすること、各機関が今後の方針を考える一助とすることを目的に、国大図協近畿地区協会助成事業として1月27日に開催しました。

全国から205名の参加があり、多くの感想や次回を期待する声から満足度の高さが窺えました。

- シュプリンガー・ネイチャー社との転換契約パイロットプロジェクトに参加

- 本学研究データポリシー策定検討およびポリシー実施検討WGへの積極的関与

IV. その他

- 宅配便受取の非接触化

ILL 現物貸借の資料の受け取りを、非接触で行う取組みを一部の館で始めました。宅配業者がカウンター横の専用 QR コードを読み取ることで、サインなしで資料の受け取りが完了します。

- RPA (Robotic Process Automation) 推進班への参加

RPA ツール等を導入して本学の事務業務全般の DX 促進を検討する「RPA 推進班」に図書館から職員2名が参加しています。

1. 「SDGs」関連図書のブック展示

「SDGs」で掲げられている目標を1回につき一つずつ取り上げ、その目標に関連する図書の展示を順次行っている。

- 5月 : 5. ジェンダー平等を実現しよう
- 7月 : 6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに
- 10月 : 4. 質の高い教育をみんなに



2. 奈良カレッジズ学問祭における推薦図書の展示

4月に法人統合した奈良女子大学との取り組みで「奈良カレッジズ学問祭」(8/25~8/31)が開催され、学問祭に登壇した講師の推薦図書を準備した。学問祭最終日には、推薦図書を展示した会場で講師と学生が語り合う場も設けられた。推薦図書は、学問祭終了後に、図書館でも、講師の推薦文とともに展示を行った。

学問祭推薦図書展示



3. 展示会の開催

図書館の展示スペースにて、図書館主催の展示会「正倉院模造復元品展」を実施した(10/27-11/15)。また、展示スペースは授業と連動した「成果発表書作品展」(7/30-8/16、2/13-2/21)、「ENJOY Math Art 展」(1/17-1/31)や「で・あいのある世界展」(4/19-4/28)とといった展示会でも活用された。



正倉院模造復元品展



成果発表書作品展

4. 近畿地区四教育大学図書館との貸借無料化の実施

平成26年より京都教育大学、大阪教育大学、奈良教育大学の3大学間における学生依頼の現物貸借サービスにおいて、学生負担となる往復の送料を依頼大学が負担する取り組みを行っていた。令和4年6月より、新たに兵庫教育大学も参加することになり、近畿地区四教育大学間で実施することとなった。

5. 学生スタッフによる図書館ガイドの作成

図書館の学生スタッフが自身の勉強を進める上で役に立った図書館の使い方、図書の探し方、おすすめの図書などをまとめた図書館ガイドを専修ごとに作成し、図書館のホームページで公開している。今年度は新たに音楽教育専修のガイドを追加した。

6. 大学の特色を踏まえた学習資料の充実化

本学の特色ある教育研究の一つである「インクルーシブ教育」関連図書について、担当教員の協力を得て重点的に整備した。

7. 授業関連図書コーナーの整備

シラバス掲載図書と各学問分野の初学者が最初に読んでもらいたい図書を揃えた授業関連図書コーナーについて、図書館運営委員会委員の協力のもと、令和4年度は教育社会学・火山学・スポーツ栄養学関連図書に「初級」「中級」といったレベル付けを実施した。レベル付けされた図書には「初級」「中級」等のシールを貼り、授業関連図書コーナーの棚には教員からの推薦コメントのポップを掲示した。また、ブックガイドを作成し、学生に配布している。

8. ブックハンティングの実施(オンライン・店頭)

例年実施している、学生によるブックハンティング(選書ツアー)を、令和4年度は6/8に実店舗の店頭で、10/21-11/3に書店ウェブサイトを使用したオンライン形式で実施した。特にオンライン形式の方は、1日で予定人数に達して募集を締め切るほど多数の応募があった。

合計16名の参加があり、199冊の図書を購入した。



好きな本を3万円分選べる!

オンラインブックハンティング 参加者募集

ブックハンティングとは…

学生のみならず、「教員の図書館に置きたい図書」を書店で直接確認ができます。今回は、書店のウェブサイトでも選書オンライン形式で実施します。

「こんな本があったらいいな」「こういう本があったら役に立ちそうだ」と感じたらぜひ応募ください。

授業の参考図書、卒業や修論の執筆に必要な図書、教育実習や教員になるために参考になる図書など、大学図書館にそろわれない図書を応募することができます。

ブックハンティングで、自分が読みたい本や、現在・未来の教員たちに読んでほしい本を選んでください!

□募集対象：本学学生(学部生、大学院生) 10名程度
□選書期間：2022年10月21日(金)～11月3日(木・祝)
※お好きな時間にパソコン・スマートフォンから参加できます
□選書上限：一人につき合計3万円分まで
□図書到着後、1～2冊を選んで展示用のポップ作成をお願いします

参加希望の方は、下記QRコードからお申し込みください。

申込期限：10月18日(火)

※応募多数の場合は早急に締め切ることもあります。
図書館ホームページを参照の上、早めにお申し込みください。



2022.10 奈良教育大学図書館

奈良女子大学 令和4年度特色ある取り組み

I. 企画展示

2F 展示コーナーでは、年間テーマ「昔の数学の教科書と問題集」として和古書の教科書等を展示しました。また、学生アルバイト（通称 LiSA(Library Student Assistant)）と協働で、年間テーマに関連した展示等を随時行いました。



○「ひらめき脳トレクイズ」

12月～3月

メインテーマの「数学」にちなみ、「ひらめき脳トレクイズ」を展示しました。毎月の更新を楽しみにしていただけましたようです。

○バレンタイン企画「ブラインドブック『愛、それは・・・』展」 2月



本の表紙をカバーで隠して、帯の紹介文を頼りに本を選んで頂く企画をしました。

○「表紙が春色の本」 3月

表紙がパステルカラーの春色の本を展示しました。

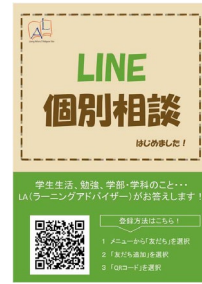


2022（令和4）年度 和歌山大学図書館 活動報告

令和5年4月

1. 図書館 LA による LINE での相談受付開始（7月～）

図書館 LA（ラーニング・アドバイザー）による
学生からの相談受付は図書館1階ラーニングcommonsで
行っているが（対面）、LINEでの相談受付を開始した。



2. 図書館 LA ミニ講習会 2022 の開催

- ・大学生のための メールマナー（7/28）※オンライン
- ・英語学習法（8/2）※対面とオンラインによるハイブリッド開催
- ・卒論等で役に立つ論文の調べ方（11/16）※オンライン
- ・伝わるプレゼン資料作成術（12/15）※オンライン
- ・レポート作成手引き（2/6）※オンライン



3. 図書展示

職員によるテーマ選定および展示

- ・沖縄 ・マネー ・天候 ・イタリア ・あ！コレ知ってる！！なおはなし展
- ・冬 ・オードリー・ヘップバーン ・〇〇カ

4. 学生向けガイダンスの実施

- ・「和図図書館ビギナーズ」（Googleフォームを使いゲーム感覚で取り組めるオンラインガイダンス）

【入館編】165人参加

【レポート準備編】156人参加



5. 「レポート作成応援講座」の開催

講師：経済学部特任助教

対象：本学の学部1～2年生（3年生以上も可）

- ・イチから分かるレポートの書き方（5/16、5/24 追加開催）
- ・情報探索編「イチからわかる！レポート・論文作成に必要な情報の探し方」（6/27）
- ・実習編（10/31）

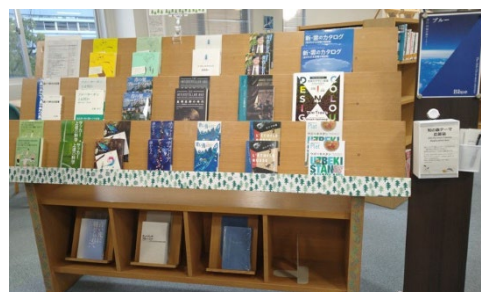
以上

令和4年度 奈良先端科学技術大学院大学附属図書館 特色ある活動の報告

1. 知の森コーナー

学内から募集したテーマや図書館職員が設定したテーマに沿った資料を選び、「知の森コーナー」として展示している。令和4年度の知の森コーナーのテーマは以下のとおり。

第35回からは展示スペースを、来館者の目につきやすいレイアウトに変更した。



令和4年度知の森コーナー展示企画一覧

| 実施回 | 実施時期 | テーマ |
|------|------------------|--------------|
| 第34回 | 2022年3-7月 | スラヴを知る 世界を知る |
| 第35回 | 2022年7-12月 | マイクロワールド |
| 第36回 | 2022年12月-2023年3月 | ブルー |
| 第37回 | 2023年3月- | 百花繚乱 |

2. ACSとのRead&Publish 契約締結

本学物質創成科学領域がAmerican Chemical Societyと3年契約でRead & Publish契約を締結した。

本学で購読料とオープンアクセスのための出版料を総括的に契約するのはこれが初めての取り組みである。

3. 学術リポジトリnaistarのJAIRO Cloudへの移行

本学リポジトリは2009年の正式運用以来dspaceを使って学内独自に運営してきたが、リポジトリサーバの運営にかかるコストの低減と、研究データの公開とJPCOARスキーマへの対応を踏まえ、JAIRO Cloud(WEKO2)に移行した。7月にWEKO3に移行する予定である。

2022年度 国際日本文化研究センター図書館活動報告

1. 近世期絵入百科事典データベースの正式公開

2022年4月、近世期に出版された絵入百科事典を検索できるようにしたデータベース「近世期絵入百科事典データベース」の正式版を公開した。

試作版からのリニューアルにあたり、IIIFに対応し、収録コンテンツおよびその解題を追加した。また、全体のデザイン性や操作性の向上も行った。

収録コンテンツの『訓蒙図彙』に関しては、寛文版・元禄版・寛政版の3版に同じ項目がある場合、それらをIIIFで一覧表示する「訓蒙図彙・3版比較機能」を搭載した。

(<https://kutsukake.nichibun.ac.jp/EHJ/>)



2. 風俗図会データベースのIIIF対応

2022年9月、日文研所蔵の絵双紙（絵草子・絵草紙）の高精度画像データベース「風俗図会データベース」掲載の全画像をIIIFに対応させた。これにより、IIIFで公開された画像同士を、その公開元にかかわらず、IIIFに対応したビューワ上で並べて表示させたり、画像にコメントやタグを付けたりすることができるようになった。

(<https://shinku.nichibun.ac.jp/esoshi/>)



3. 日文研デジタルアーカイブ（仮称）の作成

貴重資料を始めとした所属資料の電子化及び公開を促進するため、「日文研デジタルアーカイブ（仮称）」の構築に取りかかり、2023年3月に所内限定で試験公開した。外部公開は、2023年度中を予定している。



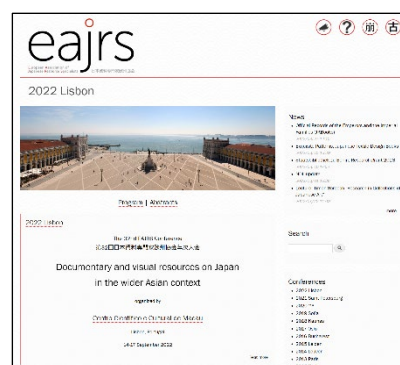
4. 近代日本美術展絵葉書データベースの作成

「文展」（文部省美術展覧会）、「帝展」（帝国美術院展覧会）、「新文展」、「二科会」を中心に、日文研が蒐集した各美術展開催時に発行された出品作品の絵葉書データベースの構築に取りかかった。2023 年度中に一般公開を予定している。



5. EAJRS（日本資料専門家欧州協会）年次集会 2022 への参加

2022 年 9 月 14 日から 17 日の日程で、ポルトガルのリスボンにおいてハイブリット形式で開催された「第 32 回日本資料専門家欧州協会（EAJRS）年次集会」に、日文研図書館から、関野情報管理施設長が現地で、職員 4 名がオンラインで参加し、発表者への質疑応答、シンポジウムへの参加等のかたちで意見交換を行った。



6. 東亜図書館協会（CEAL）・北米日本研究資料調整協議会（NCC）・アジア研究協会（AAS） 2023 年次集会への参加

2023 年 3 月 13 日から 19 日の日程で、アメリカのボストンにおいて開催された東亜図書館協会等に、日文研図書館から、職員 1 名が参加し、NCC ワークショップ及び AAS レセプションにおいて日文研図書館のサービスについての発表を行うとともに、各国の日本資料専門家に対する積極的な広報と情報交換・ネットワーク構築を行った。



7. 研究成果の公開

日文研が所蔵する貴重な資料群の研究成果を一般向けに公開しているデータベースに、新たに収集された資料も電子化し、追加した。

公開データ追加（2022 年 4 月 1 日から 2023 年 2 月 15 日まで）

- 近世期絵入百科事典（1, 576 件）
- 絵巻物（8 件）
- 艶本資料（10 件）
- 風俗図会（15 件）

- 日本関係欧文貴重書（15件）
- 古事類苑全文（651頁分）
- 鯰絵コレクション（1件）
- 所蔵地図（3件）
- 撰関期古記録（新規公開史料9件、継続史料のテキスト追加4件）
- 怪異・妖怪画像（28件）
- 吉田初三郎式鳥瞰図（47件）

8. 美術館・博物館等への図書館所蔵資料出展

- 「明石博高」展（京都府立京都学・歴彩館の展示室、2022年4月16日～6月5日）「明石博高診療処方録」など39点
- 「縮小社会のエビデンスとメッセージ」展関連シンポ（京都国際マンガミュージアム、2022年5月14日）「好色図会十二候」など5点
- 「第70回企画展「怪異・妖怪に先人のところをみる」」（亀岡市文化資料館、2022年7月16日～8月28日）「化物尽絵巻」など3点
- 「河鍋暁翠」展（一宮市三岸節子記念美術館、2022年10月22日～12月4日）「The flowers of Japan and the art of floral arrangement.」（1891, Conder）1点
- 「没後200年 亜欧堂田善」（福島県立美術館 2022年10月29日～12月18日、千葉市美術館 2023年1月13日～2月26日）「Steph. Blankaart, De nieuw hervormde anatomie」（QM/21/B1、貴重書）1点
- 「2022年度龍谷大学文学部博物館実習十二月展「わざわざと人々 ～安寧来たれと願う今～」」（龍谷ミュージアム 2022年12月7日～12月10日）「洛東大仏殿出火図」1点

9. 日文研オンライン一般公開での図書館所蔵資料の展示

2022年11月28日から12月2日の日程で、ハイブリット形式で開催された「日文研一般公開 アナログ×デジタル@日文研」で、現地開催企画「ミニ展示コーナー」を設置し、日文研の貴重な資料のレプリカや、来所者が自由に持ち帰ることができる冊子を展示した。



以上

令和4年度 国立民族学博物館図書室活動報告

1. 資料の整備

・マイクロ資料の遡及入力について、図書 2,413 件(*)の遡及入力を行った。

(*)令和5年2月末現在

・地図資料について、126 件の遡及入力を行った。

2. 資料の貸付

令和4年6月 島根県立八雲立つ風土記の丘展覧会「古代出雲の文字」へ、図書5点を貸付

令和4年7月 石川県七尾美術館 令和4年度夏季特別展 国立民族学博物館コレクション「ビーズーつなぐ・かざる・みせる」へ、貴重図書1点を貸付。

令和5年3月 福岡市博物館 特別展 「驚異と怪異 -想像界の生きものたち」へ、図書26点を貸付。

3. 図書室見学・案内

外来研究員オリエンテーション / 総合研究大学院大学新入生ガイダンス / 国際ファッション専門職大学学生見学 / 大阪大学授業「共生学実験実習Ⅰ」学生見学 / JICA「博物館とコミュニティ開発」研修オリエンテーション / 若手研究者奨励セミナー発表者見学 / 江戸東京博物館図書室職員見学、などを実施した。

4. 職場体験活動の受入

令和4年11月1日 吹田市立第五中学校 2名

カウンター業務、マイクロリーダーの操作、図書・雑誌受入、リポジトリ登録などを体験。